地域社会との緊密な連携を築こう

～　地域の力で「命輝く学校」に　～

幸田町立幸田中学校ＰＴＡ

１　学区及び学校の概要

本校は、幸田町の中心部に位置する、全校生徒５１８名、通常学級・特別支援学級含めて２０学級の中規模校である。三つの小学校区から構成され、歴史のある地域と新興住宅地が混在しており、保護者の考え方の多様化が進んでいる。

本校は、教育目標「命輝く学校」の基、教育活動を進めている。一番の特徴は、全校合唱や全校ダンスなど、全校生徒で一つのことに打ち込む活動があることである。

２　研究のねらい

コロナ禍や教員の働き方改革の影響もあり、以前に比べＰＴＡの活動は大きく削減されている。そんな中、教育目標「命輝く学校」を踏まえ、保護者に大きな負担をかけることなく、ＰＴＡの活動が生徒の成長にどのように関わることができるのかについて模索した。

３　研究の仮説

学校の教育目標を踏まえたＰＴＡの活動を展開していくことで、保護者は学校の教育方針をより理解し、生徒のための活動として主体的な取組が期待できるであろう。

４　研究の方法

教育目標の中の重点目標の一つである「家庭・地域、外部関係機関との連携の充実」に焦点を絞り、ＰＴＡの活動を通して、生徒が自他の命の大切さを実感したり、瞳を輝かせて物事に取り組んだりと、生徒の命を輝かせることを目標に取り組んだ。

５　研究の実践

（１）生徒の安全を守る取組

ア　子どもを守るパトロール隊

平成１７年より、ＰＴＡ幹事を中心に、「幸田中学校区　子どもを守るパトロール隊」を組織し、生徒の交通安全、防犯など安全を確保するために年２回、四日間活動に取り組んでいる。ＰＴＡの他にも、各行政区長や区長代理、老人クラブの方などに事務局から文書等で呼びかけ、中学校の職員とも協力し合って実施している。昨年度ＰＴＡ幹事の提案で立哨を行う場所を見直し、より生徒の下校の実態に即した活動を行うことができた。

イ　情報モラル講習会

本年度は、本校の元ＰＴＡ会長でもあり、情報通信会社に勤務されている方を講師としてお招

きし、インターネットとの正しい関わり方について講話をいただいた。インターネットは素人が簡単に入ってよい世界ではないこと、入っていく以上は、必要な知識を身に付けて大人として扱ってもらえるようにふるまうことについて話された。

生徒の感想には「情報通信機器を安全に使うために、『時間を決める』『大勢のグループ SNS には属さない』『むやみに写真を送らない』という自分ルールをつくり、身を守りたいと思いました」「インターネットは危ないよと言われ続けているのに、何も対策していないから、自分でルールを決めたり、怪しいサイトに入ったりしないなどの対策をして安全にスマホを使いたいと思いました」とあり、自分の身は自分で守るということへの意識の高まりを感じた。

ウ　学校保健委員会

ＰＴＡ組織の一つの保健体育委員会が主催し、毎年テーマを決め、講師を招いて講演を行っている。講演は、全校生徒と希望する保護者を対象にしている。

本年度は「ストレス」をテーマに、本町でスクールカウンセラーとして勤務されている方にお越しいただき、「ストレスによって心身にどのような影響があるのか」など詳しく解説していただいたうえで、簡単にできるストレス解消の呼吸法を体験した。

（２）生徒を後押しする活動

ア　ＰＴＡ資源回収

本校では、年２回資源回収を行っている。周囲の学校が拠点回収に移行する中、高齢者の方の「家まで取りに来てくれて助かっている」という声に応えると共に、より多くの収益につなげるために、戸別回収を続けている。

ＰＴＡ幹事会で事務局から活動の目的を説明し、協力に理解を求めている。準備は、ＰＴＡ幹事が中心となり、地区ごとに３年生を中心に分担を決め、配付文書を作成するよう事務局より依頼する流れで進めている。資源回収で得た収益は、主に部活動で使う道具の購入に充てている。生徒からの希望を集約し、職員で話し合った後、ＰＴＡ幹事会に諮り、承認を得ている。昨年度は、球技で使うデジタルタイマーを購入した。

６　研究の考察

教育目標については、年度当初に学校長がＰＴＡ総会で直接説明しているが、ＰＴＡ新聞や本校ホームページ、また、体育大会や文化祭等の学校行事で示したりしていくことで、「命輝く」という言葉を大切にした教育活動が展開されるようになり、これまで以上に一貫性が増し、生徒や保護者にもキーワードとして浸透していった。

７　成果と今後の課題

学校評価アンケートにおいて、設問「ＰＴＡ活動が活発で充実している」において、保護者の肯定的な回答の割合はコロナ禍以降徐々に上昇（R4:64.1%、R5:71.9%、R6:72.7%）している。現時点においてこれ以上ＰＴＡとしての活動を増やすのは難しいが、教育目標を周知することは、学校と家庭、さらに地域が力を合わせるための一助になると思われる。